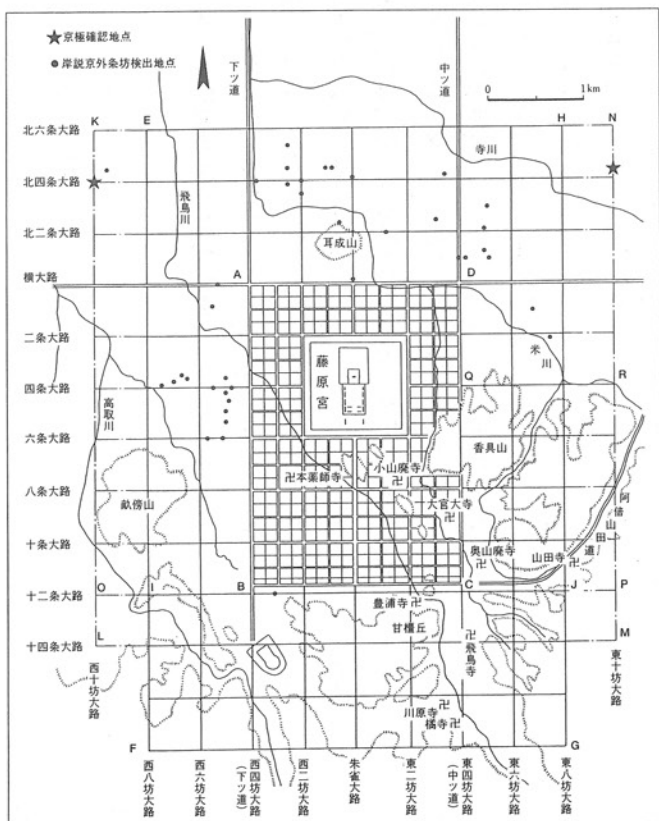


藤原京の条坊呼称について

本書において藤原京の遺跡が二カ所掲載されているが、一方は



藤原京域の復元諸説(条坊呼称は岸説およびその延長呼称による)
 ABCD=岸俊男説、EFGH=阿部義平・押原佳周説、EIJH=秋山日出雄説、KOPNまたはKOCQRN=竹田政敏説、
 KLMN=小澤毅・中村太一説。

〔小澤毅「浄御原宮と藤原京の発掘」(『古代史研究最前線』)より〕

藤原京跡、他方は大藤原京跡となり、条坊呼称の方式も両者で異なっている。これは次のような理由による。

藤原京の京域については、東西二・一km、南北三・二kmの範囲に東西各四坊、南北十二条分の条坊がしかれたとする岸俊男説が、長らく通説であった。ところが、近年の調査でその外側でも条坊道路が相次いで検出され、「岸藤原京」よりも広い「大藤原京」説が唱えられた。そして現在では、その東西幅は五・二kmと確定し、南北の限りについては未確定ながら、藤原宮を中央にした正方形の京域と見る復元案が有力になっている。但しこれと「岸藤原京」との関係については諸説ある。

さてこうした状況において、橿原市・桜井市など関係機関では、できるだけ広範囲について発掘調査を実施すべく、対象域を「大藤原京跡」という名の周知の遺跡として取り扱うこととしている。そして大藤原京域の場所を表現するのに、歴史的な用語ではないが、便宜的に岸説の藤原京の条坊呼称の数値を外側に延長して、「西六坊」「北四条」などと呼んでいるのである。

(寺崎保広)